

# 大学院生シンポジウムGS02

## 薬学基礎研究からベッドサイドへの情報発信

### Information Transmission from the Basic Research to the Bedside in Pharmacy

矢吹 悌<sup>1</sup>, 山崎 由衣<sup>2</sup>

<sup>1</sup>東北大院薬, <sup>2</sup>神戸学院大院薬

日本は高齢化社会の急速な進行により、癌をはじめアルツハイマー病や脳梗塞の原因となる脳血管障害、循環器疾患、生活習慣病が複雑に絡まっている疾患が増えている。これが患者の quality of life (QOL) の悪化だけでなく、医療費高騰にもつながっている。患者の QOL 向上と医薬品の安全な使用に、薬剤師のベッドサイドにおける服薬指導が益々重要になっている。薬学6年制が定着し、薬学では従来の新たな創薬研究に加え、医薬品の副作用のメカニズムに関する研究の重要性が高まっている。本シンポジウムは、薬学基礎研究から臨床ベッドサイドにおける服薬指導に役立つ情報を発信することを目指し、果敢に基礎研究と臨床研究に取り組んでいる大学院生7名の講演を行う。シンポジウムでは基礎研究者と臨床実習を経験した6年生が薬学から何が発信できるのか意見交換する予定である。薬学における基礎研究と臨床研究を融合する試みを紹介することは、薬学会においても有意義である。